

第58回 無縫会議事録

概要

第58回無縫会例会は、2022年10月31日(火)13時30分から「やまゆり B 会議室」において対面形式で開催された。

井口南柳さん、岩田陶泉さん、植木流水さん、佐藤藍良さん、中島風奏さん、三日尻遊児からそれぞれ3句が投句された。また宮澤華恵さんから3句の投句があった。

田中紅乃さんが欠席され、一抹の寂しさを覚えたが、当月の例会もほぼ盛会の内に終了した。

句会終了後にペンディングであった、句集の発行祝い、並びに無縫会恒例の忘年会についての話し合いが行われ、新型コロナウイルスの感染再拡大の気配も出てきた為、開催は、可能な限り早めにするのが望ましいのではないかと結論となり、開催日、開始時間、場所は以下のような予定となった。

日時： 11月19日(土)、 16:30～

場所： 「みねや寿司」

次に10月度例会の特選句は、以下の通りであった。

第58回 無縫会例会 特選句

「白壁這ふ名画のごとし蔦紅葉 」	華恵
「百舌鳥のこゑ一里四方を貫けり 」	藍良
「乗り過ごす通勤読書秋は行く 」	華恵
「永田町銀杏弔砲人や人 」	南柳
「深き谷遊んで落ちる紅葉かな 」	流水

例会の俳句談義等

- ① 「白壁…」の「名画のごとし」は、「名画のごとき」が文法上は適切であろう。また作者の感動を表す「名画のごとし」は、他のユニークな表現であったら更に良かった。

- ② 「永田町…」の「銀杏」は、「いちよう」と読むと「弔砲」との関係で句にリズムが出るであろう。
- ③ 「亡き父…」は、私達高齢者が感じる「しみじみとした心」が表現されている佳句と思う。

その他は割愛します。

俳句の豆知識

- ・ 「俳句とは、自然の素晴らしさを感じ取って短い詩としたもの」 稲畑汀子
- ・ 「言葉にはならない けはい のようなものを言葉によってただよわせる、それが私にとっての俳句の妙味だ。」 片山由美子

特記事項

句集発行祝い、並びに忘年会については上述の通り。

この忘年会の際に植木流水さんの帰朝報告会を予定しています。

地中海クルージングの楽しいお話を聞かせて頂けると幸いです。お楽しみに！！

次回の予定

「第59回 無縫会開催予定」

開催日 : 2022年11月30日(水) 13時30分～
場所 : やまゆり
季語 : 「冬」
投句数 : 3句
投句方法 : 短冊に記載の上、持参 了

三日尻遊児記